事業概要説明シート

事務事業番号 30844

事務事業名	高齢者外出支援カード配付事業		
事業開始年度	平成15年度～	担当部署	福祉部高齢社会室

根拠法令	枚方市高齢者外出支援カード購入券配付事業実施要綱
実施方法	☒ 直営 ☐ 委託又は指定管理(委託先又は指定管理者:) ☐ その他()
目的 (何のために)	バスカード及びスルッとKANSAI Kカード購入券を配付することで、高齢者が経済的事情で外出を控えがちとならないよう、外出を支援し、生きがいと社会参加を促進する。
対象 (誰・何を対象に)	8月末現在69歳以上の市民税本人非課税の高齢者
事業内容	8月末現在69歳以上の市民税本人非課税の高齢者を抽出し、9月に高齢者バスカード購入券等を送付する。 《内容》 対象者に3,300円分のバスカードを2,000円で購入できる割引購入券を4枚(そのうち1枚は、スルッとKANSAI Kカード3,000円分を2,500円で購入できる割引購入券との共通券)と利用書を送付。
類似事業	なし
事業の必要性	高齢者の外出支援及び生きがいと社会参加の促進を図ることで、介護予防につながり、ひいては介護保険における給付費の抑制につながることから必要である。

コスト		H22年度決算		H23年度決算		H24年度当初予算	
		従事職員数	概算人件費	従事職員数	概算人件費	従事職員数	概算人件費
正職員	0.25 人	2,029 千円	0.25 人	2,023 千円	0.25 人	2,000 千円	
再任用職員	0.00 人	0 千円	0.00 人	0 千円	0.00 人	0 千円	
非常勤職員等	0.05 人	80 千円	0.05 人	89 千円	0.05 人	89 千円	
人件費計(A)		2,109 千円		2,112 千円		2,089 千円	
直接経費(B)		20,833 千円		22,108 千円		28,939 千円	
総事業費(A+B)		22,942 千円		24,220 千円		31,028 千円	

財源内訳		H22年度決算		H23年度決算		H24年度当初予算	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
府支出金	0	0	0	0	0	0	
受益者負担 (使用料等)	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	
一般財源	22,942	24,220	31,028				

平成23年度 事業費の主な内訳 (人件費除く)	内 容	金 額
	高齢者外出支援カード配付事業経費(負担金20,055、印刷製本費344、通信運搬費1,709)負担金…京阪バス(株)	22,108 千円
		千円
		千円

事務事業名	高齢者外出支援カード配付事業				
事業開始年度	平成15年度～	担当部署	福祉部高齢社会室		
活動実績	活動指標もしくは成果指標	単位	H22年度	H23年度	H24年度(見込み)
	① 配付者数	人	36,447	38,915	42,000
	② 利用者数	人	10,822	11,701	12,629
単位当たりコスト (総事業費/活動指標)	① 総事業費/配付者数	円	629	622	739
	② 総事業費/利用者数	円	2,120	2,070	2,457
	③				
成果目標 (目標とする成果)	多くの高齢者が外出支援カードを活用し、バスや電車を利用して外出することで、生きがいづくりや社会参加を促進する。				
比較参考値 (他自治体での事業の例など)	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪市・高槻市…無料パスを交付している(市営に限る) ・泉佐野市…市民生活課がコミュニティバス不通地域に対して70歳以上の人へのバス利用券を36枚/年 ・四條畷市…市内循環バス＝満65歳以上の高齢者に対して本人確認後割引証を交付 乗車1回につき100円。(ただし、現金のみの支払い) 				
特記事項	※平成21年度まではバスカードのみであったが、電車を利用した外出支援策への拡充を図るため、平成22年度から4枚の購入券のうち1枚をバスカード又はKカードを購入できる共通券とした。				
一次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方策	改善	対象者に購入券を送付する際に使用する「圧着はがき」の裏面を活用し、外出を啓発する案内の掲載について検討していく。			
一次評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・費用対効果の検証が必要では ・事業自体のあり方の検討の必要性があるのでは <p>【確認】 「敬老事業」と同様、今後、さらなる高齢化をむかえると共に、元気なシニアが多い現状を考えると、当事業の内容(例えば、バスカード支給年齢の引き上げ)や事業自体の縮小の検討が必要と思われる。</p>				
二次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方策	現状のまま継続	<ul style="list-style-type: none"> ・可視的な効果を把握することは困難であるが、平成22年度及び23年度のアンケート(対象:65歳以上)結果では約6割が当事業を「必要である」との回答があり、市民ニーズは一定把握できているところである。 ・平成22年度からスルッとKANSAI Kカードが購入可能となっており、これまでのバスカード及びKカードの購入枚数や利用者数の推移などを検証して、さらに高齢者の外出につながるような取組内容の研究を行う。 			